

環境にやさしい分別を！

しっかり分別しよう 燃やせるごみ

発行
羊蹄山麓地域廃棄物
広域処理連絡協議会

羊蹄山麓7カ町村は、平成27年3月から燃やせるごみを固形燃料に変えている全国的にも珍しい地域です。焼却から固形燃料へと処理方法を変えてから5年が経過し、いま一度、燃やせるごみの出し方を見直してみましよう。



燃やせるごみから作った固形燃料

歴史

この地域の燃やせるごみ処理は焼却方式でしたが、焼却施設を使える時期は平成27年3月までだったので、協議の結果、「燃やさず、固形燃料にする」方式になりました。

固形燃料はRDF（Refuse Derived Fuel＝一般廃棄物由来燃料）とも呼ばれ、道内の製紙工場などでボイラーの燃料として使用されています。RDFにすることで、CO₂（二酸化炭素）の排出を大きく削減しています。

検査

年1回、燃やせるごみの袋からサンプルを抽出し、中のごみを種類ごとに分類。それぞれの重さの比率から、分別が正しくされているかチェックしています。

直近の検査結果では、**半分以上が燃やせるごみ以外のごみ**でした。（裏面参照）この結果は年々悪くなっています。より一層の正しい分別を心がけましょう。

塩分

固形燃料の品質を決める上で重要な成分が、**塩分（塩素）**です。

塩分が高いと、ボイラーを痛めてしまいます。

生ごみやプラスチック製品が特に塩分濃度が高く、固形燃料の品質を大幅に下げてしまうのです。

処理業者の皆さんが頑張っ
て手で選別していますが、
まずは皆さんのしっかりと
した分別が、良質な燃料の
作成に繋がります。

裏面に燃やせるごみの中身の検査結果を掲載しています

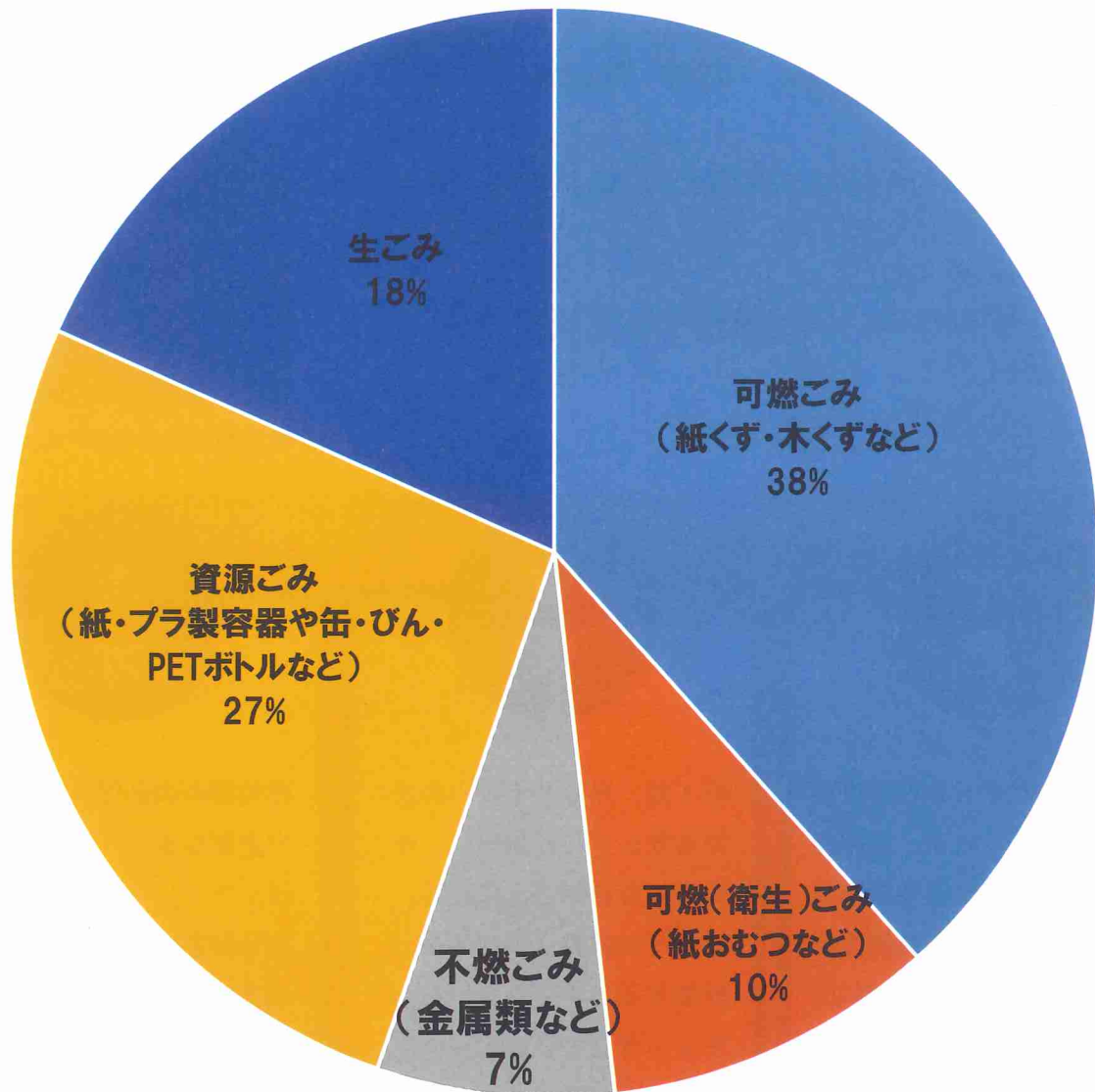
ごみの中身と今後に向けて

●ごみの中身を見てみよう

ごみがしっかりと分別されているかを確認するために、年に一回、処理先の施設で燃やせるごみの袋を開いて中身を検査しています。

下のグラフが羊蹄山麓7町村合計の検査結果です。

燃やせるごみ袋の展開検査結果



令和2年度 羊蹄山麓地域廃棄物可燃ごみ質展開検査分析結果より

●結果を踏まえて

燃やせるごみは「可燃ごみ」「可燃(衛生)ごみ」で、両方合わせても**50%に達しません**。

生ごみや資源ごみの混入も目立ちます。

生ごみは分別して専用の指定袋へ。資源ごみもそれぞれのルールに従って分別しましょう。

燃やせるごみに限らず、リサイクル意識の高いエリアに住む一員として、ごみを捨てるほんの一瞬「**これってこのごみ袋に入れていいのかな?**」と考えてみましょう。

分別で迷ったら、それぞれの町村の担当係にお気軽にご連絡ください。